

個人山行報告書

通算山行 NO	NO. 1295	報告者	後藤隆徳
年 月 日	2007年10月20日～21日	2万5千	甲斐駒・仙丈
山 名	駒ヶ岳神社～黒戸山～甲斐駒ヶ岳（2967m）～北沢峠 ケ岳・長坂上条		
体力度	= 4・やや厳しい	技術度	= 4・やや難しい
イレ	=七丈小屋	敷瀬度	=ない
展望度	=360度の展望	道標	=ある ト
		三角点名	=甲斐駒ヶ岳
		等級	=一等三角点

黒戸尾根は古典的ないい尾根だ

コース とタイム	1日目=下土狩 5:00-竹宇駒ヶ岳神社発 8:00-七丈小屋 14:10 (テント泊) 2日目=七丈小屋 7:00-甲斐駒ヶ岳 9:20～10:20-駒津峰 11:30 -仙水峠 12:53-北沢駒仙小屋 14:04-北沢峠バス停 14:25-広河原 1 5:15-芦安駐車場 16:30-芦安温泉「岩園館」-長泉 21:00
標 高 差	上り=竹宇駒ヶ岳神社 770m～七丈小屋 2380m=約 1610m =七丈小屋 2365m～甲斐駒ヶ岳 2967m=602m 下り=甲斐駒ヶ岳 2967m～北沢峠 2035m=932m
参 加 者	黒戸隊=後藤隆徳、河野光江、世古悦子=ほか12名 北沢隊=近森正彦、中村圭吾=ほか8名 合計=25名

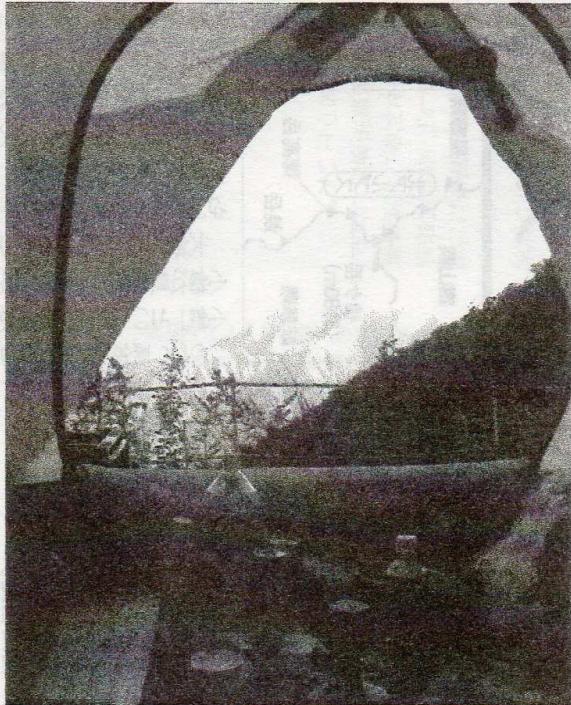
10月20日（土・快晴）

2004年年末、坊主尾根以来の甲斐駒だった。北沢峠から上の10名に見送られ15名で竹宇駒ヶ岳神社発。平均年齢は48歳。皆さん元気はいい。私を含め3名はテント泊だが、荷物は重く感じない。このところの歩荷訓練効果か。

小屋泊は七丈小屋。実はこの小屋既に宿泊者用の食料はなく、素泊のみ可能。昨日は低気圧が通過し、山は本格的な降雪で、中央高速から眺める駒は真っ白だったが、まあ大丈夫だろう。下部はまだ紅葉が真っ盛りで、綺麗な青空をバックに山々は爛々と燃えていた。

特に問題もなく黒戸山を越え、五合目に達した。以前ここにあった小屋は片付けたようで、更地になって

いた。裏の大岩に小屋番だった「古屋義成」氏のレリーフがあった。昔2～3回、会ったことはあるが、厳しい感じの印象が残っている。黒戸尾根はここから本格的な上

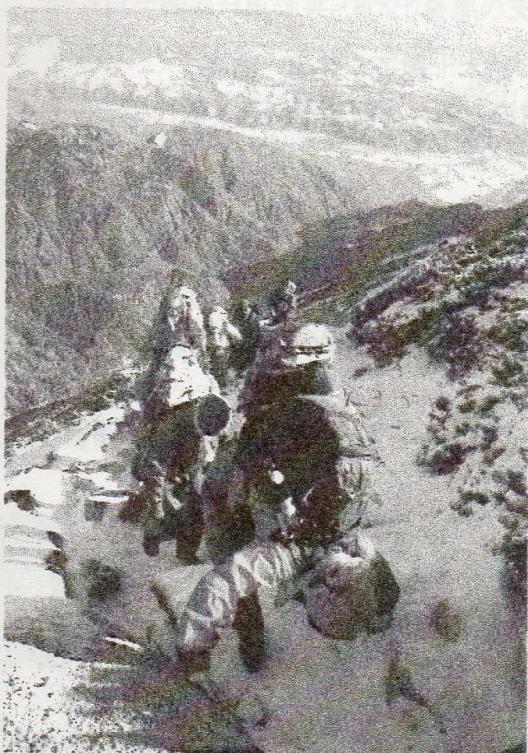


テントから鳳凰三山・地蔵岳を見る

りとなる。梯子・鎖が要所要所に設置してある。直角に近い梯子はあなどれない。ここをこなせば七丈小屋は近い。思ったより早く到着。

空を見上げると何か飛んでいる。「蜘蛛飛び現象」だった。皆は初めての体験。大いに感動したようだ。

10月21日（日・快晴）



低気圧が抜け冬型の気圧配置になった。山は一晩中、風がゴーゴーと鳴り響いた。朝はこぼしたお湯がすぐ凍る気温だった。夕べは小屋泊の何人かが遊びに来た。気持ち良く飲んだ性か、今朝は全く寒さを感じなかった。

朝方風はあったが天気は快晴。北沢隊と頂上で合流タイミングがあり、やや遅い出発。霜柱をザックザックと踏みしめ上る。八合付近から右手の北面には雪・氷が存在するが問題はない。左手には赤石沢奥壁が大きい。ダイナミックな光景に一同感嘆。若い人にはこの「感動」を今後の活動に繋げて欲しい。

九合で一箇所岩・氷・雪の悪い所がありザイルをフィックス。下りの場合はイヤな感じだ。頂上の祠が見えて来た。登山で一番いい時間帯。恍惚を感じる時だ。頂上は無風快晴。360度の展望。空は

どこまでも澄み切っている。なかなかこんな天気にはめぐり合えない。

北沢隊が今、摩利支天峰を横断して頂上に迫って来た。今日だけの行程は北沢隊のほうが上りの標高差が多い。やがて30分後、ゾロゾロと全員頂上に立った。近ちゃん、中村さんは元気いっぱい。少し「物足りなかった?」とか。

仙水峠に下山。駒津峰からの駒は立派で美しい。思えば36~7年前、初めての冬山と岩壁登攀がここだった。嵐の中、摩利支天峰・南山稜と水晶沢を上った。

仙水峠は紅葉が素晴らしい。いつもの「天カラ」(天然の唐松)は元気。仙水小屋に寄る。こここの主人はちょっと問題児? 女性にトイレを貸してくれない。ビアは売らない。写真は撮らせない。敷地に入らせない。国立公園から土地を借りて営業している意識がないようだ。

今日は会の夜又神峠バスハイク。峠さんに電話したが通じなかった。残念。



25名の甲斐駒

